## 研究・調査報告

# 米の販売のためのアンケート調査報告

松　元　里　志・吉　川　卓　良*

### 緒　　言

新食糧法が施行されてから附属農場生産米は，計画外流通米として取引されている。その相場価格は明らかな低落傾向にあり，平成９年度産米では政府価格に対して20％以上の低下が予測されている。水稲栽培は，農事部における学生教育の主要課題であり，また米販売代金は農場収入の30％以上を占める。したがって，農事部における水稲栽培を維持し，農場収入を安定的に確保するためには，販売方法を再検討する段階にきている。そこで，米販売の一手段としての精白米の個人販売に対する農場周辺の消費者の意識についてアンケート調査を行ったので，その結果について報告する。

### 調 査 方 法

調査対象は，本学事務職員とした。アンケートは，通常の農場生産物学内販売ルートで，学内すべての学部事務担当者に調査用紙をFAXで送信し，そこの構成員から任意に回答を得る方法で行った。調査項目は，性別，現在の米の購入先，米を購入するときの基準，新食糧法施行後の価格の変化，米の購入形態，現在購入しているときの白米価格／５kg，購入の際の適当な白米価格／５kgおよび農場生産米の購入希望の有無など８項目とした。なお，米を購入するときの基準については，重複回答とした。

### 結果と考察

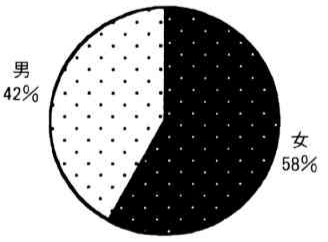
アンケートに対して，各学部から100の回答が得られた。そのうち，58％が女性からの回答であり，男性数優位の本学職員構成の中で女性の米への関心が非常に高いことが示された。（第１図）米の購入先については，米流通の変化を反映してスーパーでの購入が57％と最も多く，ついで知人・縁故21％，精米所10％の順であった。（第２図）購入時の選択基準については，食味を主とするものが46％を占め，ついで安全性と価格がそれぞれ20％で，産地・銘柄が14％の順であった。（第３図）食糧の安全性が叫ばれる今日，米購入時の選択基準として，食味が安全性を大きく上回ったことが注目され，日常食べるものはやはりおいしいものを食べたいという意識が強いと考えられる。しかし一方で，スーパーを主体とした米購入の中で，表示法など商品の安全性に対する消費者の確認が困難であることも影響していると推測される。また，新食糧法施行後の米の価格の変化については，以前と変わらない60％，むしろ高くなった28％であった。（第４図）米流通に関する規制緩和が行なわれたにもかかわらず，消費者米価が安くなったと感じられないところに，新食糧法の問題点がかいまみられる。それと同時に，今後の生産者米価の価格幅は大きくなり，全体的には，低下する傾向にあると考えられる。

米の購入形態は，91％が白米での購入であり，農事部で米の個人販売を行う場合，対象者の多くは，米の貯蔵施設や精米手段を持たず手軽な白米を購入する都市型生活者であることが明らかになった。（第５図）一方，現在の白米の購入価格は，５kg当り2500円が最も多く，ついで2000円，3000円の順であった。（第７図）また，現在の生活感覚からみて５kg当り2000円が適正な価格であるとする人が最も多く，ついで2500円，1800円の順であった。（第８図）最後に，農場で生産される米を購入したいと答えた人は69％を占め，第２図におけるスーパー，精米所など一般的小売店での購入者のほとんどに購入の意志があると考えてよいものと推測される。（第６図）

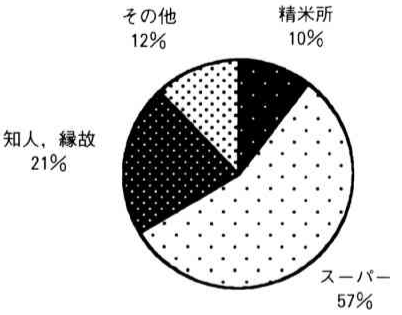
以上から，農事部で生産された米を個人販売するとすれば，白米の売り払い価格が５kg当り2000円前後の価格帯であれば，従来の玄米による政府買い上げの場合と同水準の出荷代金は確保できるものと考えられる。

＊農学部附属農場業務係

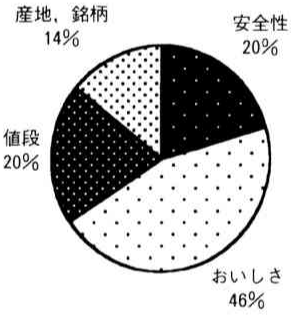
しかし，スーパー，精米所などとの競合の中で，販売路を確保するためには，米の食味と安全性を基本とし，水稲栽培過程から販売までの技術向上と施設整備の充実がさらに求められる。特に，身近な消費者に直接販売するという利点を生かして，消費者自らが生産物の栽培過程及び安全性を確認できる取り組みが求められている。



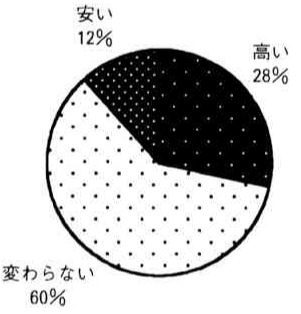

第１図　性別



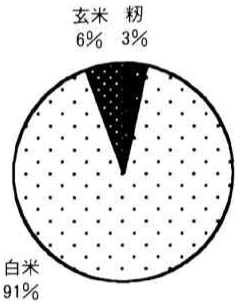

第２図　米の購入先



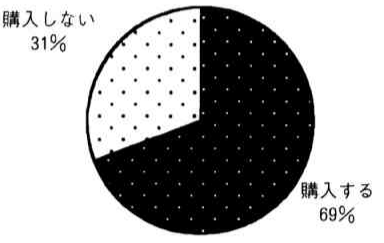

第３図　購入するときの基準



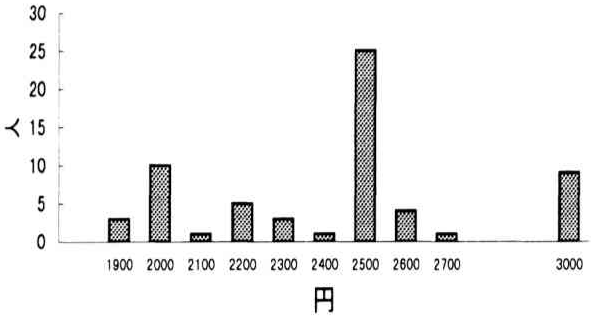

第４図　米の値段について



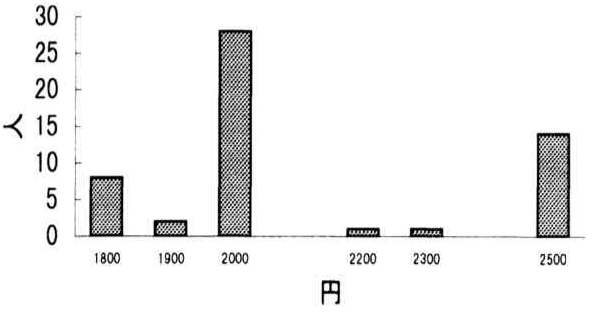

第５図　購入の形態




第６図　農場で生産された米の購入について




第７図　現在購入している白米５kgの価格




第８図　購入の際の適当な白米５kgの価格